平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
（研究成果の社会還元・普及事業）
実　施　報　告　書

HT29115　ナースを体験～手術後と子どもの看護をする看護師になってみよう！

開　催　日：　平成 29 年 7 月 23 日（日曜日）

実 施 機 関：　東京家政大学
（実施場所）　（狭山校舎）
実施代表者：　立石　和子
（所属・職名）　（看護学部・教授）
受　講　生：　37 名
関 連 URL：

【実施内容】

1．受付（9：30～10：00）　狭山校舎 4 号館 1 階ラウンジ
　本年度は、看護学部の演習室がある校舎で受付を実施した。

2．開講式（10：00～10：15）
　実施代表者の挨拶、 オリエンテーション後、科研費の説明、分担者の紹介、実施協力の学生の事項紹介を行った。

3．講義①「看護師の仕事について」（10：15−10：30）
　看護師になるための教育課程の説明を行った。また、看護師になってからの仕事や働く場所、さらに看護のエキスパートになる道として、認定看護師・専門看護師の制度を紹介するとともに、教育課程の説明を行った。

4．講義②　手術を受けると患者さんはどうなるか
（10：40−11：00）
　手術を受ける患者さんに対する看護について説明を行った。

5．演習①　術後の看護を体験してみよう（11:00～11：30）
（実技）腕モデルを使って、手術後の輸液を準備してみよう
（数学）点滴の計算をしてみよう
（実技）計算した滴下数であわせてみよう

　人間の体には、動脈と静脈があることを説明した。輸液療法としての点滴について、簡単に説明後、演習を実施した。
　点滴の留置針がどうなっているかをまず体験できるようにした。（危険なために留置針の内筒は除去し、静脈をみたてた紐に外筒を穿刺できるようにした。

　その後は、100ml を 1 時間で人の体に入れるための計算を行った。計算は、学生とと

もに実施した、自らが計算した滴下速度に合わせ滴下した。

手術の患者の状況にセッティングした、シミュレーション（SHINARIO）にて、観察のポイント、呼吸音・心音などを経験した。

6. 昼食（11:50～13:00）

昼食は、学食に依頼しお弁当とした。

学生とともにグループ毎に過ごした。

お昼ご飯終了後、大学内の見学希望者には、大学内を案内した。

7. 講義③子どもの観察はどうする？（13:00～13:15）

教員の藤田先生より、子どもの観察について講義を行った。その中で、循環器の専門病院で実習を行った学生より、体験談が語られ好評であった。

8. 演習②　手術を受けた子どもの観察を行なってみよう（13:15-14:15）

手術を受けた子どもの看護

子どもを抱っこしてみよう

午前中は、点滴の滴下速度の調整であったが、午後は、小児の場合の、点滴の固定方法について、人形や参加者同士で実施した。また、小児の心音聴取を行った。

災害時などにも役立つ、抱っこ紐による赤ちゃんのおんぶを経験した。

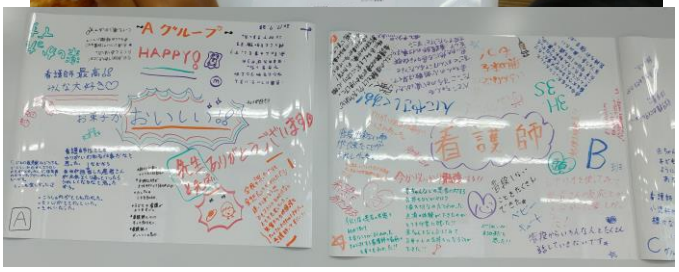
9.　クッキータイム、フリートーク（お菓子・お茶）＆グループワーク（14:40～15:10）

　看護師の仕事を体験して、看護師になるためにはどのような経験が必要か話し合ってみよう。

　2 つの経験から学んだことを、グループ毎に話し合った。各グループからの発表も活発となった。

10.　修了式（15:10～15:30）

　　アンケート記入、未来博士号授与



■プログラムを留意、工夫した点

　少人数のグループを作成し、終日そのグループで実施し、協力学生も、終日同一とした。グループ分けをする時には、高校生と中学生に分けた。

　プログラムは、講義を実施した後に演習を組み込み込んだ。

　発表会のときは、協力学生をファシリテーターになってもらい実施した。

■事務局との協力体制

①　事務担当者が振興会への連絡調整と、提出書類の確認を行った。

②　事務担当者が、関連部門へ連絡し大学のホームページにより本授業についてPRを行った。

③　事務担当者が委託費の管理および物品の発注、支出報告書を行いました。

④　事務担当者より依頼していただき、事務員によりポスターを作成していただいた。

■広報活動

①　附属中高校の事務部長に依頼後、高等部の担当教員と連絡をとった。附属中・高校生に対しては、高等部教諭に対応いただいた。

②　大学のホームページへの掲載をおこなった。

■安全配慮

　参加者全員分の障害保険に加入しました。また、協力の学生に関して、事前にオリエンテーションを実施した。また、参加者が移動する際には、協力者の学生に付き添いを依頼した。

■今後の発展性、課題

　3回目の実施となり、昨年度からの協力学生がリーダーシップをとり、協力学生をまとめるとともに、在校生の縦のつながりが得られ協力学生の成長につながった。本年度は、看護師の業務としても特殊な部分であるが、看護師の業務として知識・技術が統合する部分を行った。

　今回は、附属中・高校に参加日程を確認し開催したことで、附属中・高校よりたくさんの参加者があった。しかし、附属以外の参加者枠が少なくなったため、参加人数の調整が必要である。

　教員が作成した演習は、参加者より好評得たが、あわただしく実施することとなったため、内容の検討とともに時間配分が必要である。

【実施分担者】
齋藤　正子　看護学部　講師
藤田　藍津子　看護学部　講師
小野寺　光　家政学部　造形表現学科　助教

【実施協力者】　　12　名
【事務担当者】
野々村 宜政　狭山学務部学務課長
狩野　久美　　狭山学務部学務部